

北海道銀杏会 第 24 回講演会

日時 2016 年 2 月 1 日（月）18 時 30 分～20 時 30 分

場所 KKR ホテル札幌 2 階「はまなす」

講師 札幌市立大学デザイン学部 講師 上田 裕文 様

本日は、講師に札幌市立大学デザイン学部の講師でいらっしゃる上田裕文様をお迎えし、「樹木葬による墓地としての森林管理の可能性」と題してご講演をいただきました。

森林の専門家でいらっしゃる上田先生は、ドイツ学術交流会奨学生としてドイツに学ばれたとき、森林葬のことを知り研究を進められています。本日は樹木葬に関して、①先進地ドイツにおける状況、②日本ならびに北海道における現状、③今後に向けた提言の観点よりご講演いただきました。

本日のお話は、森林管理のみならず、地域社会と家族のあり方、先人供養や宗教などにも関係する、幅が広くて身近な内容でした。そのため、ご講演後の質疑応答ならびに意見交換は引きも切らず、時間の都合上、やむなく終了せざるを得ないほど盛況でした。

ご講演いただきました上田先生とご参加された会員の皆様に、厚くお礼申し上げます。

1. ドイツの樹木葬墓地

（1）沿革

赤字体質であった森林の新たな活用や墓地と環境の両立などを目的に、2001 年に民間運営会社 Fried Wald によってラインハルトの森（国有林）で開始されました。骨格は、高木にネームプレート打ち付け、借地期間 99 年、自然分解の骨壺、森林官による埋葬や案内、料金（35～70 万円）などです。

（2）現状

ほぼ統一した形態でドイツ全土へ普及し、全国で 500 ヶ所、火葬の 1 割が樹木葬となっています。

2. 日本における樹木葬墓地の多様化

（1）日本とドイツの比較

	日本	ドイツ
墓標	植樹が中心	高木をそのまま利用
形態	バラバラ	運営会社により統一
管理	僧侶や造園業者	森林官

（2）日本の特徴

形態としては、ガーデニングタイプやシンボルツリータイプの都市型樹木葬墓地が 8 割を占めます。里山タイプや樹林タイプといった森林利用型は少ないです。

昨今の家族構成を背景に無縁墓への不安等が広がっています。そのため永代供養型の合葬式共同墓の人気の高まっており、その一形態として樹木葬墓地は注目されています。

3. 北海道における樹木葬墓地

2005 年に北斗霊園と釧路陵墓公苑が開始されましたが、まだ樹木葬は少ないです。北海道では鹿の被害による枯死が多く、樹木から石に戻る動きもあります。

合葬墓へのニーズが高く、昨年、合葬式共同墓が開始されました。

4. 今後への提言

- (1) 森林の機能として墓地を追加することで、森林管理につなげられないか。
- (2) 都会と地方では環境が大きく違い、自然葬にこだわらず多様性がある良いのではないか。
- (3) 日本の伝統文化に沿いつつも、遺族に負担が少ない形態の樹木葬のモデルが求められている。

(文責 渡辺知博)